

# 大日本塗料の素顔

## 創造と調和のもとに永遠の繁栄を

「……戦災によって本社社屋を全焼し、工場のほとんどを壊滅してしまった会社は、創業から終戦までの資料を欠きましたので、その多くを会社縁故の方々から提供された断片的な資料と記憶によりましたため、今後さらに多くの補筆を要することと存じます。……私どもはこの中に脈々として流れる先達の精神、とりわけその不撓不屈の精神を、互いの血液に受け得ることを光榮に思っております。一つの発明に対して、一つの製品を得るために、私ども先達は、あれほどの情熱と精魂を尽されたことを知り、おのずと襟を正さずにはおられません。

現代はまさに新時代への激動期であります。瞬時も現状にあまえることなく、常に今日が新しい時代開発への一歩であるとの自覚をもたなければなりません。……」

これは昭和44年に刊行された当社創立40年の社史に載せた池田社長のあいさつ文に見る一節であります。

更に同史は、「みずからの技術により、独特の製品を社会に供給して、人類の文化に貢献する」と誓い、「創造と調和」の社是を掲げて、永遠の繁栄を期すると結んでいます。それから満3年、塗料工場4、鉛化成品工場1、蛍光品工場3をもち、塗料研究所3、鉛研究所1、蛍光品研究所2によって、多数の系列会社と共に新しい技術の開発へ不断の努力をつづけている

のが大日本塗料であります。

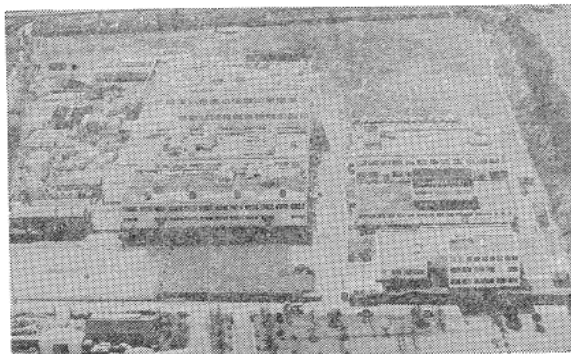
## 公害防止に対する使命感

元旦の空は青く澄みわたり、東京では遠くに富士山を望めたということです。すべての人が世の活動が開始するつかの間とはいえ今更ながらに、自然の素晴らしさを知り、失なわれた世界をとり返した喜びにひたったことでしょう。

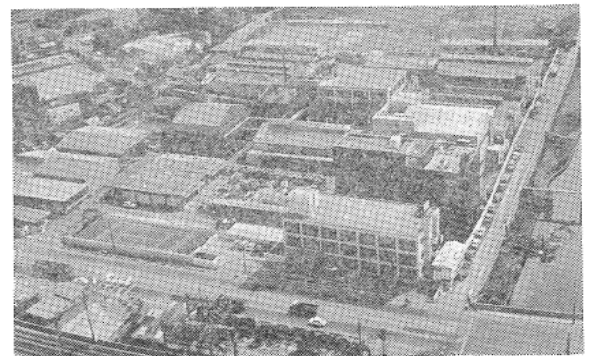
工場から噴き出る煙、力強い建設の槌音、いきおいよく排出される廃液……これらは、わが国のたくましい成長のシンボルとして賞讃されてきましたが、今日では「公害」として、重大な社会問題となり、企業の社会的責任が鋭く追求され、公害企業はその存続すらも危ぶまれております。

このような状況下にあって、当社は「公害」という言葉が、世に喧伝されるずっと以前から「人間幸福の原点に立って、自然の活力と調和した企業活動をしなければならぬ」という理念のもとに、自然環境保護を経営の根幹におき、万全の対策を講じてきました。その結果、カドミウム、硫化亜鉛、鉛、さまざまな有機溶剤などまことに厄介な原料を使用していながら、20数年にわたって「無公害企業」「労働環境整備企業」として、幾多の表彰を受け、各界から賞讃を得てきました。

当社が卒先して公害防止事業を興こしたのも、実に長年積み重ねた公害防止技術力を用いて、公害排除を徹底し、生命の源泉である自



小田原工場



本社・大阪工場

## 生産と技術

然を守ろうとする人類の要請に応えたのであります。爾来、当社が開発した独自のシステムは多くの企業に設置されて、いずれも好評を得ております。

とき恰も昨年6月ストックホルムで開かれた国連の第1回人間環境会議が、逐に「かけがえない地球」をテーマに掲げたことを思い、今更の感を深くしております。

### 世界に冠たる蛍光体技術

当社を最も特長づけているものは蛍光体事業でしょう。

情報産業の雄として、わが国が世界に傑出しているものの1つにテレビがありますが、このテレビの「顔」ともいふべきブラウン管に当社の蛍光体が活躍しているのです。

テレビ用蛍光体は、今日、世界第1位の生産を誇り、海外需要の30%、国内需要の90%を満していますが、この技術はすべて当社独自の研究に成るものであり、30年余の歴史の成果であります。

なにしろ、この蛍光体は1億分の1という驚異的な純度が要求されますので、研究者の苦心努力は非常のものでしたが、反面に世界の学界の関心ともなり、3人の学位者を生むことにもなりました。一般に、テレビ技術の最大の難関は蛍光体にあったとされていますが、この意味で当社の果たした役割は非常に大きかったといえましょう。

また、わが国民の平均寿命の著しい延びは、医療の進歩、特にレントゲン技術の発達に負うといわれていますが、このレントゲン診断に用

いられる増感紙、蛍光板も当社の重要な蛍光体製品であります。

その他蛍光体の関連技術製品として、放射能測定装置等が事業化されつつあり、蛍光体を基底とする未来技術の開拓は、無限の広がりが見られますので、この事業に対する期待は極めて大きいといえます。

### 伝統をもつ鉛化成品

当社は、わが国の鉛化成品総生産量の約50%を生産しています。当社が「鉛粉塗料株式会社」として創立されましたように、鉛化成品は当社40数年の歴史と共に磨かれた伝統ある特殊技術であります。

当社初代社長・島津源蔵翁は、数年間にわたる実験研究の結果、逐に鉛の粉末化に成功し、世界的発明として社会の称讃を博しております。この鉛粉を特殊技術によって塗料にした「ズボイド」が、世界8ヶ国の特許を得た画期的な防錆塗料であって、40年後の今日なお鉄構造物の防錆に最高度の能力品質と評されております。

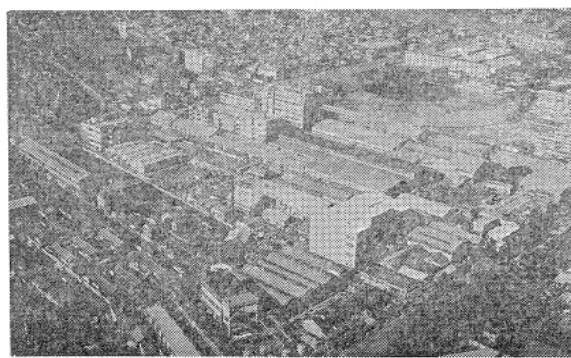
更に鉛粉はリサージ、鉛丹、鉛白となって塗料の他に光学用のレンズ、テレビブラウン管、ビニールの安定剤などの主要原料として使用されていますが、とりわけ当社の高純度鉛顔料は日本のカメラを世界の王座に据えたといっても過言ではないでしょう。

### 40年の歴史に輝やく塗料

鋼鉄の使用量が一国の文化や経済発展の尺度として用いられるのと同じに、鉄と共に歩む塗



小牧工場



横浜工場

料が文化のバロメーターとなった今日では、塗料工業の伸長は実に驚異的であります。

当社は、鋼鉄の防錆に企業生命をかけて創造された「鉛粉塗料」の専門技術会社として昭和4年に創立されたことは前記の通りですが、以来40年余の間、科学の急速な進歩と共に多くの新防錆塗料技術を開発し、今日なお防錆塗料先進会社の栄誉を保持しております。

云うまでもなく、塗料の用途は殆んど無限であって、文化造型材のすべてにその活躍を見るものでありますから、日本の上位代表的塗料会社であります当社は、当然にあらゆる塗料の技術開発に備えて、大阪、横浜、名古屋にそれぞれ近代的な研究所をもち、日夜研究に励んでおります。

当社の特許が殆んど国際的であり、年間の件数が比較的多いのも伝統的創造性によるものであると思えます。

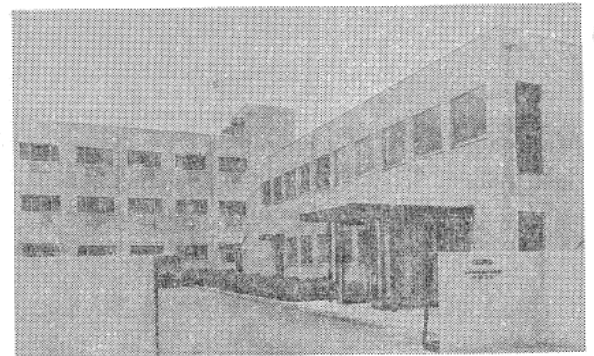
#### 明日の技術に挑戦する情熱

革命的な防錆塗料を創造し、蛍光体技術を先駆し、鉛顔料に独自の地歩を確立した当社は、つねに冷えることを知らぬ情熱を注いで日夜未来の技術に挑戦していますので、遂次その成果

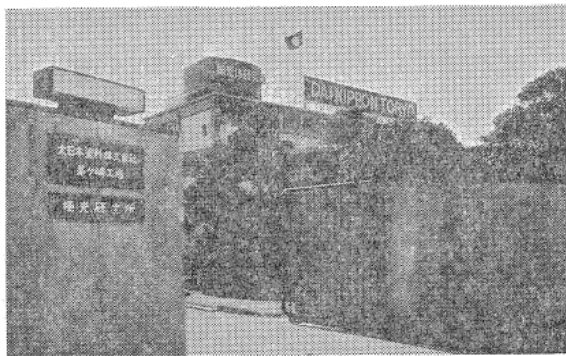
は挙がっております。

現に、世界的な「液晶」の開発は、国家の研究助成の下に日立製作所、旭硝子とのシステム化により鋭意その完成を急ぎつつありますし、画期的な世界特許「液状熱硬化性塩化ビニール系成型用樹脂」は、プラスチック業界の要望を担って近く事業化の準備を進めております。

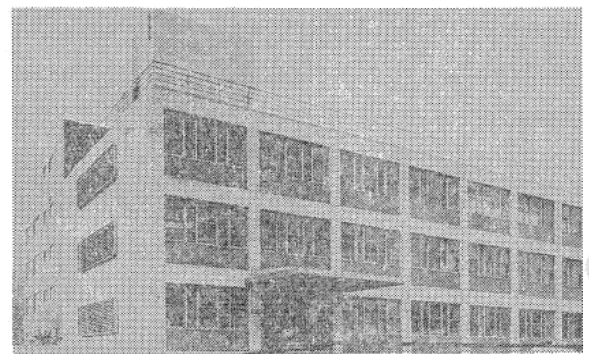
以上大日本塗料の事業と経営理念を概観しましたが、当社は更に、現今の社会情勢に対応して工場の緑化を始め、人間性豊かな作業環境づくりや、週休2日制を中心とする労働時間の合理化等により、生きがいのある職場と、豊かな人生の創造を望んで躍進をつづけているのであります。



平塚工場



茅ヶ崎工場



本社（大阪市此花区）